

調査に参加した感想 武田七海さん

2023.3.1スーパー調査、好事例報告会にて

はじめまして。

立命館大学三年生の武田七海です。

今日は、ボランティアに参加した学生として、お話をさせていただきたいと思えます。

5分ぐらいお時間をいただけるということで、まだまだ環境問題へは勉強中の私なのですが、聞いていただけると嬉しいです。

話の流れとしては、ボランティアに参加しようと思ったきっかけ、ボランティアに参加してみた感想や学んだこと、そして、今後意識したいことを話したいと思えます。

参加したきっかけは

大学の授業で、堀さんが活動について講演をしてくださり、プラスチック削減への関心とともに、堀さんの自身の活動、取り組んでいることに対する熱のあるお話に魅力を感じ、何かお手伝いできればと思ったからです。

感想としては、

普段スーパーを利用する際に、野菜などの青果物の包装やお菓子・乳製品・加工品などのプラ製について、あまり意識をしていなかったもので、新しい視点からスーパーを見ることができて、興味深かったです。

特に、野菜の包装量の多さに驚きました。キャベツが1玉だと包装されていないが、二分の一、四分の一になるにつれて、包装が増えていくことを感じました。

また、取り組みの中で、堀さんに昔は量り売りだったことや海外では量り売りを行っている国があることを教えていただきました。

このことをきっかけに、量り売りについて調べて見ました。

調べてみたところ、

イギリスでは買い物によって発生するプラスチックゴミをゼロにしようとするスーパーが広がっていて、すべて量り売りの店もあるようです。

私は、コロナ禍で多くの方が衛生問題に敏感になっている中で、なかなか利用する方

も伸びないのかな、と思ったのですが、このお店を経営する方は、「コロナでオンラインショッピングが増えたことをきっかけに買い物によるゴミがたくさんでることに驚かされ、見直したいと考えるようになった人が増えたようだ」というように述べていました。

このようなお話から、日常の中で、少し視野を広げると、何かのきっかけで、いろんな問題に気づくことができる、そしてその気づきが大事だと思いました。

量り売りには、量り売りをするためのレジの機械や衛生面のためのシステムなどの導入も必要になってくると思う一方、本当に必要な分を必要な時に購入できるので、使いきれずに残してしまう機会も減らせると思いました。

ただ、海外の真似をするのがベストかと言われるとそうではなく、日本人の考え・日本で生活する人の思いや世の中の流れを汲み取り、日本に適した導入のあり方を見つけ、取り組む必要が大きいと思いますし、私自身ももっと海外の事例について調べていきたいと思います。また今後日本のスーパーがどのように変化していくのか楽しみです。

そして、最近、ロフトで使用済みの化粧品の容器を回収しているボックスが置いていることに気づきました。

ロフトは若い世代の方もよくいく場所だと思うので、多くの人に環境問題について考えてもらえる良いきっかけになるとと思いました。

今後私としては、

スターバックスなどのカフェで自分のタンブラーを持参することや、毎日お水を購入するのではなく、自分でお茶を沸かして、水筒を利用することを意識していきたいです。

最後になりますが、この活動に参加し、私自身、視野を広げることができ、また、このような機会にお話をする事ができて、本当に嬉しく思います。

私からの発表は以上になります。ご清聴ありがとうございました。